

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	
A-134		17-060	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）			
Trends in alcohol use among young people according to the pattern of consumption on starting university: A 9-year follow-up study. 若者の大学入学後の飲酒パターンから見たアルコール摂取動向：9年間のフォローアップ調査			
執筆者			
Moure-Rodriguez L, Carbia C, Lopez-Caneda E, Corral Varela M, Cadaveira F, Caamaño-Isorna F.			
掲載誌			
PLoS One. 2018 Apr 9;13(4):e0193741. doi: 10.1371/journal.pone.0193741. eCollection 2018.			
キーワード			PMID
若者、飲酒パターン、フォローアップ研究、スペイン			29630657
要 旨			
目的： 危険な飲酒(RC)あるいは深酒(BD)傾向といったアルコール摂取パターンを大学入学後にすでに身につけていた学生とそうでない学生間の違いを見出すこと、そして学生が大学でなぜそのような行動をとるようになるのかを理解すること。			
方法： スペインにおける大学生のコホート研究 (n = 1382)。 BD と RC は、18 歳、20 歳、22 歳、24 歳、27 歳の学生における飲酒障害識別試験で調べた。反復測定結果の複数レベルロジスティック回帰により調整オッズ比 (OR) を計算した。			
結果： 本研究では 18 歳でこれらの摂取行動をとらない学生では一貫して RC および BD の罹患率が低かった。RC および BD は、パーセントポイント (pp) で表すと 27 歳の女性ではそれぞれ 24 pp と 15 pp、男性では 29 pp と 25 pp であった。若年齢における飲酒開始は大学の男性 (OR = 2.91、2.80) と女性 (OR = 8.14、5.53) とともに、RC および BD パターンに陥るリスクを増加させた。同様なことが、親と別に暮らしている学生の BD においても観察された (男性は OR = 3.43、女性は 1.77)。女性においてのみ、RC (OR = 1.82) および BD (OR = 1.96) に肯定的な期待を持つことにより影響を受けていた。			
結論： 27 歳時の RC と BD への罹患率は、すでに 18 歳の時にその飲酒パターンを身につけた大学生の方がそうでない学生に比べて非常に高く、女性においてもその違いは同様だった。アルコール摂取開始の年齢に着目し、大学で学生がこのようなアルコール摂取パターンに陥るのを防ぐためには、未成年者のアルコール摂取を妨げることが優先課題である。			